

日本ユニコム

# 仮想取引でコンテスト

携帯電話  
アプリ活用 顧客がリスク体験

日本ユニコム（東京都中央区、青山秀世社長、03・5623・5111）は11月から12月3日まで、携帯電話端末用アプリケーションによる商品先物の仮想取引コンテストを実施する。利用者に取り引のリスクを知ってもらい商品先物取引の普及・啓発活動を推進。新規顧客の取り込みを図るほか、コンテスト参加者の投資行動を分析してセミナー内容にも反映する。年内にも現在の利用者数を倍増させ、新たな営業手法の一つとして定着させていく方針だ。

仮想取引サービスでは、同社が9月から提供を始めた携帯電話端末用アプリケーション「P1フラッシュ・バーチャル」を利用。ユーザーは仮想の資金を元手に対面取引の手数料で取引を体験でき、希望により電話での無料アドバイスや仮想の代理発注サービスも受けられる。電話やインターネット、クイックレスポンス（QR）コードで申し込みができ、コンテストの参加費用は無料。預かり金残高が1位から30位までの30人に旅行券を贈る。

同社はすでに同様のコンテストを開始しており、22日に終了する。この結果を踏まえ、次回に向けては利用者の1日当たりの売買枚数や売買頻度などの投資行動を分析。預かり金残高の高い利用者について、テクニカル指標や経済指標に対

する反応や取引パターンをセミナーで解説し、商品先物取引への顧客の関心を喚起していく。

「P1フラッシュ・バーチャル」は同社が扱う商品先物すべてを仮想取引の対象とする。気配値や日足から1分足までの六つのチャート情報などをリアルタイムで確認できる。